

レコードラインのイメージと呼び方

レコードライン

コースをそのバイクで走る時の最も速い理想のライン。
一般論で話す時には、コースに対して十分な性能がある車両を前提にイメージする。
実際は、車種仕様、攻略方法に合わせてアレンジされる。

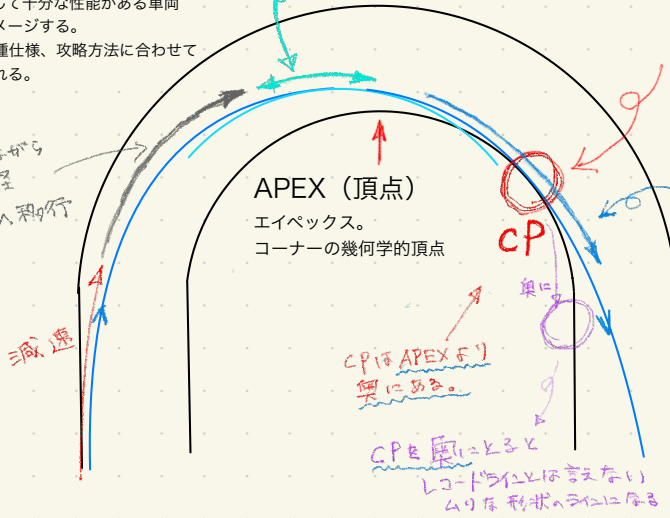
ラインの頂点部分は、この後、旋回半径を大きくしながら、しっかりと加速するために、スピードを殺して旋回半径を小さくするラインを描く。
しかし、小さすぎると最低速度が落ちてしまい、直線の最高速到達地点までの全域でのスピードが遅くなる。

CP (クリッピングポイント)

クリップとも言う。
速く走る時の目標地点で、レコードラインの一番インに寄る場所。
逆に言えば、CPを通れなければ、スムーズに速くは走れない。

立ち上がりは、速度上昇に合わせて旋回半径を大きく取れるように最初に描く（イメージする）。
そうすれば、速度上昇しても遠心力が増えないから、スリップダウンを防ぎ、スムーズに速く直線に繋がられる。

ブレーキをリリースしてから
最小半径
最低速度へ移行



青：レコードライン

オレンジ：インに早く付いてしまうライン。(強いて言うなら、ブロックラインでしょうか。)

絵を描いてみれば、レコードラインにレコードラインの速度で復帰するのが難しい事は一目瞭然。

緑：最大の定常円のライン。最低速度を落とさないライン。

一般にアウトインアウトの例で描かれるが見た目以上に高リスクが潜んでいる。

最小半径がーに比べて大きく
加速の位置も早い

これでも良さそうだが、
加速の位置が遅い。
ーに比べて最小半径が小さく
最低速度が低い
ストレート・スピードが全体的に遅くなる。

インに付いても
ココはクリップではない

緑とオレンジのラインは、コーナーのインには付いているが、クリップに付いているとは言えない。
「速く走るため」のアウトインアウトとは言えないからです。
これをクリップというなら、イン側は全てCPという事になってしまう。

R(円の半径)は最大で
最低速度は一番高いが、
加速位置が遅い、最高速度が遅い。
フルバンクから急加速となり
リスクも大きい。

ラインが急に
内から直線へ変わる

この図では、
直線は長く
加速が十分できる
バイクで走ると仮定する。